市場取扱高3年ぶり増

野菜単価200円回復

経由率低下から脱却か

昨年の全国卸売市場の取扱金額は3兆1924億円で前年比2・6%増と、3年ぶりに増加した。果実はほぼ前年並みだったものの、野菜が入荷増にもかかわらず200円台の単価を回復し、4・0%増加したことが大きい。最盛期に比べると数量で7割、金額で6割程度にとどまっているとはいえ、近年は単価の下げ止まりがみられる。これが市場経由率低下からの脱却につながるか―。

野菜については、市場への入荷減は一服しつつあり、この数年1千万㌧台は維持している。健康志向や若い女性の間での野菜ブーム、地場野菜への需要増など、後押しする要因は多い。

価格も2000年の㌔178円を底に徐々に上昇。バブル期並みの230円とまではいかないものの、全国平均では200円を回復、主要市場に限ると203円、東京市場では229円となっている。

一方果実は、価格については02年の㌔253円で底を打ち、近年は上昇傾向。しかし入荷量の減少が止まらず、ピーク時と比べて半減。生産者の高齢化、篤農家の農協および市場出荷離れ、さらに食生活の多様化などで果実消費が落ち込んでいることなどが考えられる。輸入果実は一定の取扱いを維持してはいるものの、果実全体としての入荷量、卸売金額は過去最低を更新し続けている。

なお、近年の傾向として、大都市拠点市場は市況のよい時期も悪い時期にも、他市場との差を引き離している。取扱高については市況に左右されることが多いが、入荷減のときにこそ数量を確保できるかがカギ。その意味では普段の販売力と産地に対する信用も、ますます問われよう。

全国卸売市場の青果物取扱動向

上段＝数量（千㌧）、中段＝金額（百万円）、下段＝㌔単価（円）

年（1～12月）	野菜	果実	合計
1991	13,408	6,649	20,057
	3,077,230	1,991,697	5,068,928
	230	300	—
1993	13,626	6,792	20,419
	2,989,322	1,696,263	4,685,586
	219	250	—
2003	12,443	5,221	17,665
	2,334,533	1,273,267	3,607,800
	188	244	—
2011	10,640	3,813	14,454
	2,095,797	1,043,144	3,138,941
	197	274	—
2012	10,508	3,758	14,267
	2,077,773	1,033,234	3,111,007
	198	275	—
2013	10,758	3,534	14,292
	2,160,883	1,031,525	3,192,408
	201	292	—

全国生鮮食料品流通情報センターまとめ